

2022 年度事業実績

2022 年度においては、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、感染防止対策に十分配慮しながら、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、「一人ひとり」そして「人と人の出会い」を大切に教育を進めるとともに、研究、地域連携活動等をより一層推進した。

1 教育活動

(1) 教育方針

個々の学生に応じたきめ細かな支援を行いながら、学生の向学意欲を喚起し、より高く幅広い知識や技能を修得させるとともに、コミュニケーション能力を身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

(2) 教育活動

大学・大学院 756 名、短期大学 374 名の計 1,130 名の在学生(2022 年 5 月 1 日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

また、アクティブラーニングを重視した授業を拡大するなど、対面授業の充実を図るとともに、DX 推進の一環として、PC の必携化を進めるために、生活心理学科で先行実施を行うとともに、「BYOD 導入の実施方針」を決定し、大学では 2023 年度から、短期大学では 2024 年度から導入することとした。

①大学

- ・ 総合人間学部言語文化学科では、コロナ禍で中断していた海外留学を再開し、20 名がイギリス、韓国、台湾での実習や留学等に参加した。また、語学検定受験を奨励し、2 名が英検 2 級に合格した。カリキュラム改訂では、観光系科目として「観光英語」、「観光学概論」の科目を開講した。
- ・ 生活心理学科では、心理学の基礎理論をベースに消費者心理学などビジネスに役立つ心理学やデータサイエンスの科目を充実させた新たなカリキュラムをスタートさせるとともに、2023 年度から学科名をビジネス心理学科に変更することとした。
- ・ 地域マネジメント学部では、専門教育科目に「産業活性コース」と「社会貢献コース」を設けた新たなカリキュラムの実施と旧カリキュラムからの着実な移行を行った。また、地域企業や行政、高校などとの連携を着実に拡大させ、それを学修に反映させるとともに、地域社会における認知度、信頼度の向上につなげた。
- ・ 看護学部では、入学前教育や初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、1 年次から学生が目標をもち、主体的に学修に取り組める環境を整え、計画的な国家試験対策に取り組み、合格率は看護師では 95.8% (前年度 93.3%)、保健師は 100% (前年度 81.3%) となった。
- ・ 助産学専攻科では、1 年課程の中で集中的に学修する専門教育を通じて、豊かな人間性と幅広く確かな知識・技術を兼ね備え、地域社会において母子保健に貢献できる人材を育成した。助産師国家試験については、対策講座や模擬試験を活用した対策を行ったが、合格率は 50.0% (前年度 88.9%) であった。

②大学院

- 看護学研究科では、看護学の動向や最新情報を取得するため学会に参加し、大学院生4名の内の1名(25.0%)、大学院専任教員の3名(100%)が学会発表を行うとともに、学内では、種々の領域が共同・協力した研究活動に取り組んだ。

③短期大学

- 健康栄養学科では、教育内容の改善と丁寧な学修指導に取り組み、学生に達成感と充実感を持たせる教育を行った。2021年入学者(2年コース)の4名が栄養教諭二種免許を取得するとともに、3年コースでは継続して業務従事経験を積み、調理師で2名、製菓衛生師で2名が国家試験に合格した。
- こども育成学科では、学生が専門的知識、技能、現場での即戦力を身に付けることのできる授業の充実を図るとともに、新たに認定絵本士養成講座を開設し、34名が資格を取得した。また、3年コースでの苦手克服コースでは、ピアノ、作文指導等を細やかに対応した。

2 研究活動の活性化

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心に活動を行った。

- 研究成果を積極的に公開するため、31名の教員が、論文発表71件、学会発表92回の計163回の発表を行った。
- 学内研究補助金には36件の応募があり、学内研究20件、教育改革3件を採択した。また、同補助金による研究成果の学内紀要「山陽論叢」への発表件数は6件であった。
- 競争的外部資金獲得については、科研費を11件8,450千円の補助金を獲得した。また、大学は「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の転換」に採択(7,200千円の補助金加算)された。

3 学生募集活動の強化

- 少子化によるいわゆる18歳人口の減少も加速するなど、学生募集活動を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、2023年度入学生は、大学、短大、大学院合わせて325人(対前年度+8人)となり、入学定員に対する充足率は、大学では81.7%、短大で75.6%となった。

◇2023年度入学者の状況

	学部・学科		入学定員	入学者数	充足率(%)
大学	総合人間学部	言語文化学科	60 [60]	37 [43]	61.7 [71.7]
		生活心理学科	30 [30]	39 [21]	130.0 [70.0]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	50 [50]	34 [40]	68.0 [80.0]
	看護学部	看護学科	78 [78]	68 [65]	87.2 [83.3]
	計		218 [218]	178 [169]	81.7 [77.5]
	助産学専攻科		10 [10]	10 [9]	100.0 [90.0]
大学院	看護学研究科		6 [6]	1 [2]	16.7 [33.3]
短期大学	健康栄養学科		80 [80]	72 [57]	90.0 [71.3]
	こども育成学科		100 [100]	64 [80]	64.0 [80.0]
	計		180 [180]	136 [137]	75.6 [76.1]

合 計	414 [414]	325 [317]	78.5 [76.6]
-----	-----------	-----------	-------------

※ [] 内は、2022 年度入学者

(1) 進化する学びや取組の発信

- ・ 学科名を変更したビジネス心理学科や地域マネジメント学科の新たなカリキュラム体系をはじめとする学びの特色、3年コースを選択できる短期大学の学修、各種の奨学制度など、各学科の「強み」や「学びのアップデート」等を紹介するリーフレットを作成し、的確かつ効果的に周知を図った。

(2) 募集活動の工夫等

- ・ 直接、大学や短大の魅力を体感できるオープンキャンパスは、出願促進に最も重要なイベントであるため、事前予約や科別分離開催などの新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら、体験内容などの工夫改善を行って開催した。
- ・ 学生募集活動のための事前研修を学科単位で実施し、訪問時期を入試区分別に重点化するとともに、進路決定のプロセスを重視した訪問を実施するとともに、沖縄に配置した駐在スタッフによる高校訪問を実施した。また、3年ぶりに在学生による出身校訪問を再開した。
- ・ 言語文化学科では、上代杯高校生英語プレゼンテーションコンテスト（24校49名応募）や、地域マネジメント学部では、高校生を対象とした地域マネジメントコンテスト（15件応募）を実施し、高校生に本学の学びに関心をもってもらうきっかけづくりを行った。
- ・ 高校との継続的な繋がりによる信頼感を醸成し、出願者の増加に結び付くよう、高校への探究学習、出張授業への講師の派遣、関西高等学校との連携協定の締結など高大連携に取り組んだ。
- ・ 高校生に専門分野の学びと本学の魅力を体験してもらうアカデミック・インターンシップを新たに実施し、31校から120人が参加した。参加者のうち、59人が本学に入学するなど大きな成果があった。
- ・ 社会人が学びやすいライフスタイルに合わせた学修システムである短期大学「3年コース」等のPRを行い、5人が入学した（大学1名、短大4名）

(3) 多様な媒体による効果的な情報発信

- ・ 受験生向けサイト「受験生NAVI」をはじめ、大学案内やリーフレット等の印刷物、新聞広告・TV-CMなどのマスコミ媒体、SNS・ネット広告などのWEB媒体など、多様な媒体の中から効果的なツールを選定し、オープンキャンパスへの誘導や学部の取組の紹介などの情報発信に努めた。

4 学生支援の強化

(1) 学修支援の強化

- ・ 退学が懸念される学生について、教授会で対応策を協議し、アドバイザーやクラス顧問が前・後期各2回以上の定期的な面談指導や成績不振者の保護者懇談、適時的確な就職指導を行うなど、一人ひとりへの丁寧な対応に努め、修学意欲の維持・向上等を図った。

- ・ 学修支援をさらに充実させるため、基礎学力不足の学生への支援と障がいのある学生への支援の2つの役割を担う学修支援センターを2023年度から設置することとした。
- ・ 退学・除籍者の率は、大学は2.2%、短期大学は3.2%となっており、主な理由は、精神的・身体的理由、経済的理由、進路変更などであった。

◇退学・除籍者数（2022年度）

	学部・学科		現員数	退学・除籍者	率 (%)
大 学	総合人間学部	言語文化学科	172 [188]	6 [6]	3.5 [3.2]
		生活心理学科	125 [136]	2 [3]	1.6 [2.2]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	162 [165]	3 [3]	1.9 [1.8]
	看護学部	看護学科	284 [302]	5 [9]	1.8 [3.0]
	計		743 [791]	16 [21]	2.2 [2.7]
短 期 大 学	健康栄養学科		166 [133]	3 [5]	1.8 [3.8]
	こども育成学科		208 [153]	9 [3]	4.3 [2.0]
	計		374 [286]	12 [8]	3.2 [2.8]
計			1,117 [1,077]	28 [29]	2.5 [2.7]

※ [] 内は2021年度、現員数は2022年5月1日現在

(2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ・ コロナ禍の影響で学生のサークル活動は活性化せず、課外活動への参加率も64.1%（2021年度55.1%）にとどまったが、大学祭は3年ぶりに一般の方を迎え、2日間の日程で開催した。
- ・ 学生の悩みごと相談は、相談形態を電話相談、メール相談に加え、オンライン相談も実施し、相談件数は266件（前年度141件）と大きく増加した。
- ・ 外国人留学生に対して、入学時のオリエンテーションをはじめ、ビザ申請、住宅斡旋、奨学金申請、事故対応、多岐にわたる相談に対して適切な指導を行うとともに、卒業後の進路指導、就職活動の情報提供も実施した。
- ・ 障がいの有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう「障がい学生支援のガイドライン」に沿って、必要な支援を行うとともに、全教職員を対象に研修会を実施し、対応力向上を図った。（新規申請6名、全体21名）

(3) 就職支援の強化

- ・ コロナ禍の影響により企業の採用活動のオンライン化が進む中、就職率の向上のため、キャリアセンターと学科アドバイザー等とが緊密な連携を図りながら、学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることができるよう就職支援を行った。

◇学科別就職率（2023年5月1日現在）

	大 学			短 期 大 学	
	総合人間学部	地域マネジメント学部	看護学部	健康栄養	こども育成

	言語文化 学科	生活心理 学科	地域マネジメント 学科	看護学科	学科	学科
就職率	97.3%	97.2%	97.1%	100.0%	98.0%	100.0%

- ・ 早い時期から就職意識を醸成するため、「就活塾」や「留学生就職ガイダンス」、保護者や在学生を対象にした「就職懇談会」、「卒業生による業界説明会」、「栄養士業界説明会」、「実習病院就職説明会」、「保育士合同面談会」（オンライン）を実施したが、コロナ禍の影響により「就職支援バスの運行」は中止した。
- ・ 「社会人入門」、「インターンシップ」、また県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。また、公務員を就職先と考えている学生を対象に教育課程とは別に公務員試験対策講座を開講し、2名が地方公務員（一般行政職）に合格した。
- ・ 公務員試験対策講座受講者数
基礎講座（2年）17名、集中講座（3年）10名、直前講座（4年）9名
- ・ 就職先企業を中心に企業訪問し、情報交換を行うとともに、卒業後1年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

5 地域連携の推進

(1) 地域との連携事業の推進

- ・ 地元平井学区や、包括協定先との連携・協働事業、大学間・産学連携事業などを、30件（前年度32件）の連携事業を行った。また、前年度新たな協定先となった岡山市、トマト銀行との事業を拡大し、岡山市中区との事業では新たに地域マネジメント学部が加わった。

(2) ボランティア活動の推進

- ・ コロナ禍にあったが、ボランティア派遣要請は31件（前年度20件）と増加し、チラシの掲示や各学科への情報提供を通じて、可能な限り学生に周知した。
- ・ ボランティア参加者は、コロナ禍前に比べて大幅減となったが、感染症対策の徹底や感染状況を見計らった活動も見られた。
 - ・ ボランティア参加者数 277人（2020年度65人、2021年度64人）

(3) 社会人教育の充実

- ・ 本学のもつ専門的知見を地域社会へ発信するため、徹底した感染症対策と人数制限を行った上で、対面での公開講座を2回（参加者79人）開催し、公開講演会（参加者82人）も3年ぶりに開催したが、山陽学園文化セミナーは、昨年度に続き中止となった。
- ・ 聴講生の受け入れに関しては、説明会を開催し、開講科目の情報提供を行った。（前期1名、後期2名）

6 施設整備

- ・ 学生が快適に学修できるよう、2021年度に改修工事を行ったA棟にWi-Fiスポットを増設し、ネット環境の整備を行うとともに、映像・音響設備など講義用機器の更新を行い、遠隔授業へ対応できるよう、録画・配信に必要な機器も充実させた。また、安全で快適なキャンパスライフを過ごすことができるよう樹木の管理などの環境整備を行った。
- ・ 建物の耐震化及びバリアフリー化の推進のため、2021年度に耐震補強工事を行ったA棟以外の旧耐震基準の建物については、引き続き総合的な観点から計画的な検討を進める。

7 大学運営の強化

(1) ガバナンスの強化

- ・ 合同会議、教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等を円滑に運営し、決定事項を組織内で共有し、その実現のため、それぞれの構成員が役割を果たした。また、時々の課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努めた。
- ・ 自然災害をはじめとする不測の事態を想定し、緊急連絡体制を構築し、関係者に徹底した。
- ・ 新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用や手指の消毒、検温、机・椅子の消毒など感染防止対策を徹底するとともに、学長をトップとする危機管理委員会を開催し、迅速かつ適切に対応した。

(2) 大学改革等

- ・ 2024年の認証評価受審を視野に入れ、教育、研究をはじめとする大学運営を学内で点検・評価し継続的に改善するしくみ（内部質保証）を確立し、中期計画の項目達成に向けて事業計画等を体系化し、この体系によって点検・評価を実施する形でのPDCAサイクルを構築した。
- ・ 2024年度に向け、言語文化学科での「アジアコース」「英語コース」「日本コース」の3コース制への改編、言語文化学科と地域マネジメント学科の副専攻としての観光専修課程の新設など、学びのアップデートを進めた。

(3) 教職員の資質向上

- ・ リモートを活用した学外の研修会への参加など、全ての教職員は様々な機会を活用して自己研鑽に努めた。
- ・ 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD（Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み）・SD（Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み）研修を6回実施した。

(4) 広報活動の強化

- ・ 大学広報室を中心として、本学の知名度と認知度の向上を意識し、パブリシティの効果的な活用とともに、ホームページ、テレビCM、ネット広告等を通じた情報発信を行った。
- ・ 大学広報のブランド力向上のため、「Student First」をブランドメッセージ（タグライ

ン)として設定することを決定した。

8 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・ コロナ禍の影響により、活動の制限もあったが、大学キャンパス内の散策、園外保育での自然の中の遊び、山登りなど幅広い自然体験や栽培活動を通じた野菜の収穫体験等を通して、心動かす直接体験から好奇心や探究心を育むことにつなげた。
- ・ 新生活様式の中で、大学や短期大学の教員や学生との連携により、短期大学、大学看護学科の実習園としての役割を果たすとともに、新学習指導要領に位置づけられた英語学習など山陽学園ならではの教育を進めた。また、地域、家庭などと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養い、人と関わる力、コミュニケーション力を育んだ。

(大学との連携) 英語学習、歯磨き・手洗い指導、学生による劇や絵画制作見学など

(地域等との連携) お茶会、陶芸、餅つき、野菜作りなど

2022年度事業計画 数値目標達成状況

【定員の確保】			
1	2023年度の入学定員を100%確保する。	大学(2023年入学)	81.7 % [77.5 %]
		短大(2023年入学)	75.6 % [76.1 %]
2	志願者数を大学600人以上、短大200人以上にする。	大学(2023年入学)	303 人 [295 人]
		短大(2023年入学)	143 人 [156 人]
3	志願度の高い総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を270人以上確保する。	(2023年入学)	269 人 [256 人]
4	山陽学園高校からの入学者を60人以上確保する。	(2023年入学)	43 人 [34 人]
5	社会人入学者を10人以上確保する。 ※委託訓練を含む	(2023年入学)	12 人 [4 人]
【教育の充実】			
6	中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。		2.5 % [2.7 %]
7	GPAの全学での平均値を2.4以上とする。 ※GPA値=学生ごとの授業科目の成績評価(GP:0~4)の平均値	(前期)	2.61 [2.63]
		(後期)	2.58 [2.70]
8	学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業) ※2022年度後期はコロナ禍で評価中止	(前期)	97.8 % [95.7 %]
		(後期)	94.6 % [- %]
9	対話型、問題発見・解決型授業の割合を70%以上とする。	(大学)	65.1 % [55.6 %]
		(短大)	73.0 % [60.0 %]
10	アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が70%以上になるようにする。		61.6 % [63.3 %]
【資格取得の推進】			
11	看護師国家試験の合格率100%を達成する。		95.8 % [93.3 %]
12	保健師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0 % [81.3 %]
13	助産師国家試験の合格率100%を達成する。		50.0 % [88.9 %]
【希望する就職の実現】			
14	全ての学科で就職率を100%にする。 (言語97.3%、生活97.2%、地域97.1%、看護100.0%、栄養98.0%、こども100.0%)		98.6 % [98.5 %]
15	専門職への就職率を90%以上にする。[健康栄養学科]		66.0 % [84.2 %]
	専門職への就職率を95%以上にする。[こども育成学科]		83.1 % [94.4 %]
【研究活動の活性化】			
16	外部資金(科研費等)を15件以上獲得する。		11 件 [11 件]
			8,450 千円 [7,800 千円]
17	全ての教員が論文等の発表1件以上又は学会発表1回以上を行う。		38.3 % [38.3 %]
			31 人 [31 人]
18	学内研究補助金により行われた研究の報告の「山陽論叢」への掲載件数を5件以上とする		6 件 [5 件]
【地域連携・地域貢献の推進】			
19	学生のボランティア参加人数を延べ500人以上とする。		277 人 [64 人]
20	地域との連携事業を50件以上実施する。		30 件 [32 件]
21	社会人教育の受講者数(公開講座、公開講演会、文化セミナー)550人以上 ※文化セミナーは、大学・短大実施分		161 人 [60 人]
【その他】			
22	パブリシティによる情報発信を年間150件以上行う。		26 件 [65 件]
23	図書貸出冊数を学生一人当たり15冊以上とする。		4.1 冊 [3.5 冊]

※〔 〕は、2021年度実績